

第59号

有明工業高等専門学校

〒836・大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1011

印刷：重富オフセット印刷

有明高専だより

九月のはじめに

校長 吉村虎藏

台風十三号

真夏日と熱帯夜が、例年になく長く続くうえ、八月中の雨量も極めて少く、このまま九月の授業を迎えるかと、少々バテ気味でいるところに、軽く見られていた台風十三号が、八月三十一日朝六時頃から九時過ぎまで荒狂つて通過した。最近では珍らしく屋根瓦も飛びぶれた。

学校では、宿直職員二名の活躍をはじめ、危険を犯して登校した近隣在住の教官職員が、学校施設の防災対策、被害調査、応急修理、関係業者への連絡、跡片付けなどで活躍した。このようななきいつも、歌舞伎の「地震加藤」を想起するのである。私自身、久振りに平常と違った肉体的・精神的疲労を感じる日であつたが、近年永く忘れ去っていたものを想起する日でもあった。

橋梁工学史上、最大に数えられる三つの事故がある。この中二つは風による事故であり、耐風工学上の研究のことを思出したからである。事故の一つは、一八七八年のスコットランドのティ橋(50m×13)、他の一つは、一九四〇年アメリカのタコマ吊橋(853m)の落橋である。前者は設計風圧の過少、後者は風によるフラッタが原因とされ、設計当時には原因不明の貴重な事故、教訓とされ、その

後の大橋時代の発展に寄与した。

長大橋特に吊橋・斜張橋、また送電鉄塔、吊屋根などの構造物の耐風安定に関する研究は、益々活発で風洞などの研究施設・研究者の数も増加するばかりである。この度の台風十三号によつても、各地で多くの研究者が貴重な資料を得たことであろうと思いを馳せ、

十年程前まで台風の来襲を待ち、細長いH型断面吊材のフラッタ現象の研究をした頃を想起し、最近使わない脳の中の一部分が突如、目をさましたような感覚を覚えた。

八月十一日の日航ジャンボ機墜落事故の原因究明の討論の中で、垂直尾翼のねじれフラッタ説の学者もあり、構造物関係で最も興味あるテーマは耐風工学上のテーマでないかと考えてみたりする。これららの研究や技術開発は、ひとり

「五高その世界」の記事の中で、熊本太学構内のハーモンの石碑文の記事を見た。明治二十七年一月の五高生への講演の一節の英文に、「日本の将来を偉大にする所以は九州魂を養うことがある。ぜいたく、華美を捨てて、質素・善良・素朴を愛せよ」とある。西洋から流れ込む物・質・文明に惑わされず、日本人の心をいつまでも失わないではないと、訴えている。物質文明の社会を体験して来日したハーモンの主張がこれであり、この語りかけは現在の社会にも通用するものである。

五月二十六日の臨教審第一次答申の第一部第四節中の次の二項目を、ここで想い出す。(1)個性の重視(2)基礎・基本の重視(3)創造性・考え方・表現力の養成である。

第一の個性では、個人の個性のみではなく、家庭・学校・地域・国家・文化などの個性も意味している。

自分の個性を知り、それを育て生

かし、自己責任を貢ぐのみが、最もよく他者の個性を尊重し生かすことができる。これを知らねばならないといい、第二の基礎・基本の重視では、明治以来学校では「人をはじめ、各種目の成績は近況には好成績である。個人をサポートする部員、部員をサポートする全校学生の姿を美しく思ふ。弓道部が念願の団体優勝を果し、観戦して日本個別の武道の中で、動に対する静の武道の修練に感銘を受けた。九州地区大会・全国大会の成績は別に報告の通りであるが、全国大会における剣道個人戦会も担当した。関係の教職員、学生諸君の御尽力に謝意を表したい。弓道部が念願の団体優勝を果し、観戦して日本個別の武道の中で、動に対する静の武道の修練に感銘を受けた。九州地区大会・全国大会の成績は別に報告の通りであるが、全国大会における剣道個人戦

が、全日本大会における剣道個人戦

の優勝と槍投げ二位のメダリスト

をうけた。九州地区大会・全国大

会の成績は別に報告の通りである

が、全日本大会における剣道個人戦

の優勝と槍投げ二位のメダリスト

をうけた。九州地区大会・全国大

入試説明会及び
校内見学会

参加者 六八〇名

10月19日(土)

概要と講師及び日程

日 時	講 義 題 目	講 師 名
7/22 (月) 9:10 ~12:30	・新素材の話 ～お湯をかけるとたち まち原形にもどる風 変わらぬ金属の話～	小田 教授
7/23 (火) 9:00 ~10:30 10:40 ~12:30	・桜のうた人 大隈 言道	穴山 教授
	・ニューセラミックスについて	城戸 教授
7/24 (水) 9:00 ~12:30	・耶馬台国論争の要点と その傾向 ～耶馬台国の成立過程 と有明海～	松島 教授
7/25 (木) 9:00 ~10:30 10:40 ~12:30	・気まま者頬山陽の西国 旅行	穴山 教授
	・怪談の源流 ～江戸初期亡靈の女 たち～ 映画「雨月物語」上映	花田 助教授

公開講座(2)

機械技術者のためのエレクトロニクス基礎講座

日時 9月11日(水)、13日(金)、18日(水)、20日(金)
25日(水)、各17時30分～20時30分

場所 電気工学科2階電子実験室 他

受講対象者 民間企業の機械技術者20名



講座概要

開始時刻を午後5時30分とし、講義1時間、実験2時間の時間配分とした。

講座は5テーマ設定、受講者を5班に編成し、5回で1巡する構成とした。受講には、地元企業の三井三池製作所の社員が応募され、更に有明電機工業所の社員が加わられ定員20名に達した。

9月初旬の夜はまだ暑く、良好な環境とは云い難い中で、終始熱意をもって聴講され、予定終了時間を超過することも珍しくなかった。終りに、この講座に対するアンケートを求める。「理論の講義で理解出来ない部分がよく理解できた」、「今回の実験が今後役に立つことは確実」等の回答が得られ、略期待した成果が得られたものと思われる。本講座のため、理解を示され、協力戴いた関係の方に深く謝意を表します。

文責 教務主事



概要と講師及び日程

日 時	講 義 題 目	講 師 名
7/22 (月) 9:10 ~12:30	・新素材の話 ～お湯をかけるとたち まち原形にもどる風 変わらぬ金属の話～	小田 教授
7/23 (火) 9:00 ~10:30 10:40 ~12:30	・桜のうた人 大隈 言道	穴山 教授
	・ニューセラミックスについて	城戸 教授
7/24 (水) 9:00 ~12:30	・耶馬台国論争の要点と その傾向 ～耶馬台国の成立過程 と有明海～	松島 教授
7/25 (木) 9:00 ~10:30 10:40 ~12:30	・気まま者頬山陽の西国 旅行	穴山 教授
	・怪談の源流 ～江戸初期亡靈の女 たち～ 映画「雨月物語」上映	花田 助教授

公開講座(1)
技術と文化の話7月22日(月)
～25日(木)

今年度の公開講座は、アラカルト方式の本講座と後述の専門講座の二つを開講することとなつた。前者は本校としても未経験の事であつたが、担当の講師はそれぞれ、資料を豊富に揃えられ、実験を並用、このために16mmの映画を上映する等の格別の工夫をこらされ準備を進められた。しかし、はじめTVによるスポット広報等PRにてPRを依頼、NHKの協力を得ての事であり、地域住民に馴染みも少なく、受講者募集が難事で誠に残念であった。しかしながら、あつた。そのため、各新聞社、大牟田、荒尾両市の「市政だより」に広報を依頼、NHKの協力を得てTVによるスポット広報等PRにてPRを依頼、NHKの協力を得ての事でもあり、地域住民に馴染みも少なく、受講者募集が難事で誠に残念であった。

本講座のため、各新聞社、大牟田、荒尾両市広報担当の方々を容を紹介する前刷が用意された。その内容を御紹介すべきであるが、今回はスペースがなく残念ながら割愛した。

講師の熱意と興味深い講義は受講者に深い感銘を与え、校内の教職員も多数参加し、意義深い講座として盛り上りを見せた。後日、受講者より本校に対して、感謝の便りを戴いた。記して深く謝意を表します。

この講座のため、各新聞社、大牟田、荒尾両市広報担当の方々を容を紹介する前刷が用意された。その内容を御紹介すべきであるが、今回もスペースがなく残念ながら割愛した。

講師の熱意と興味深い講義は受講者に深い感銘を与え、校内の教職員も多数参加し、意義深い講座として盛り上りを見せた。後日、受講者より本校に対して、感謝の便りを戴いた。記して深く謝意を表します。

入試説明会及び校内見学会実施要項

1. 期 日 昭和60年10月19日(土)

2. 日 程

第 1 組	
受 付	12:30～13:00
ス ラ イ ド	12:45～13:00
入試説明会	13:00～13:45
質 疑 応 答	13:45～14:00
校 内 見 学	14:15～15:15

第 2 組	
受 付	13:55～14:25
ス ラ イ ド	14:10～14:25
入試説明会	14:25～15:10
質 疑 応 答	15:10～15:25
校 内 見 学	15:40～16:40

3. 会 場
(1)受 付 学生課前
(2)ス ラ イ ド 第2体育館
(3)入試説明会 タ
(4)質 疑 応 答 タ

来年度の入試説明会、校内見学会は、昨年の参加者のアンケートの結果が極めて好評であり、本校としても実施日時を除き、略昨年通りの方法で実施することを昨年度末決定し、その実施要項の検討を進めてきた。その結果、実施日時を10月19日(土)、入試説明会の開始時間30分操上げることの他は昨年と同様の要項を作成し、10月2日㈭に9校の中学校へ案内状を発送した。その反応は極めて大なるものがおり、10校70名以上の参加申込を受けた。このため、昨年の如く会場として視聴覚室の使用が不可能となり急遽第2体育館に入試説明会の会場として使用することを決定した。9月中旬より土、日曜四週統一で雨天となり、当日の天候が気懸であったが、当日は素晴らしい秋日和となつた。今回も9校の中学校へ案内状を発送した。その結果を別表に示す。今回の参加者の増加は、高専に対する関心の高さが増加したものと信じられる。終りに、この行事について協力された校内外の多くの方々に深く謝意を表すると共に、なほ高専に対する深い理解を戴きたくお願ひ申し上げます。

教務主事 荒木三知夫

入試説明会、校内見学会アンケート結果

回答 記入者	生徒	教諭	保護者	計
総参加者数及びアンケート記入者数	528名	106名	47名	681名
「入試説明会、校内見学会」に参加することを決めたのは(生徒のみ累計)	497名	66名	36名	599名
自分での保護者のすすめ	457名 (92.0%)			
先生のすすめ	6名 (1.2%)			
あなたは有明高専をどの程度知っていますか	32名 (6.4%)			
ある程度知っています	23名 (4.6%)	5名 (7.6%)	0名 (0.0%)	28名 (4.7%)
あまり知らない	205名 (41.2%)	26名 (39.4%)	11名 (30.6%)	242名 (40.3%)
全く知らない	268名 (53.9%)	30名 (45.5%)	25名 (69.4%)	323名 (53.7%)
あなたの身内の人に有明高専を勧められた人、在学中の人がいますか	30名 (6.0%)	2名 (3.0%)	2名 (5.6%)	34名 (5.7%)
卒業生がいる	46名 (9.3%)	6名 (9.1%)	2名 (5.6%)	54名 (9.0%)
在学生がいる	418名 (84.1%)	48名 (72.7%)	32名 (88.9%)	498名 (82.9%)
あなたは有明高専を見学されて、高専について、ある程度理解が深まったと思いますか	392名 (78.9%)	59名 (88.4%)	33名 (91.7%)	484名 (80.5%)
いいえ	14名 (2.8%)	1名 (1.5%)	0名 (0.0%)	15名 (2.5%)
分からぬ	90名 (18.1%)	3名 (4.5%)	2名 (5.6%)	95名 (15.8%)
設施が整っている	268名 (53.9%)	27名 (40.9%)	15名 (41.7%)	310名 (51.6%)
施設設備等が充実している	179名 (36.0%)	31名 (47.0%)	16名 (44.1%)	226名 (37.6%)
その他	8名 (1.6%)	2名 (3.0%)	0名 (0.0%)	10名 (1.7%)
8月	109名 (21.9%)	20名 (30.3%)	6名 (16.7%)	135名 (22.5%)
9月	113名 (22.7%)	7名 (10.6%)	11名 (30.6%)	131名 (21.8%)
10月	224名 (45.1%)	31名 (47.0%)	15名 (41.7%)	270名 (44.9%)
11月	35名 (7.0%)	4名 (6.1%)	1名 (2.8%)	40名 (6.7%)
その他の月	11名 (2.7%)	1名 (1.5%)	0名 (0.0%)	12名 (2.0%)

◎「入試説明会、校内見学会」に参加されて、感想や意見があれば書いてください。

※参加して良かった、学校に対する理解が深まった

※実験の説明が難しい

※実験の説明が良く理解できた

※設施が整っている

※見学時間が短い

※実験設備等が充実している

文化講演(60.10.31)

ゼロからの出発 第89回 直木賞作家 胡桃沢耕史氏



ちやつて、これには困つちやつた。
そこで言つたんだ、「十一年目に
は飢え死にしてくれ」。

この四十二歳(昭和四十二年)

から五十一歳まで世界中の旅に出

た。出発前に二つの誓いを立てた。

一つは、国境は必ず歩いて通る

こと。だからバスポートの中のス

タンブは八十九持っています。二

つ目は、その土地の食べ物を必ず

食べる。アフガニスタンへ行

った時のこと、いなかのバスに乗

つたらターバン巻いた爺さんが

てんだらと思ってたんだ。

ところが、その中で六十冊が發

売禁止になり、中に裁判になつた

ものがあつて、どうとう最高裁で

半年の懲役、三年の執行猶余の判

決をもらい裁判所の外へトボト

ボと出たら夕刊を売つた。その

第一面に、恩賜賞をもらつた司馬

遼太郎が、ほか三人と一緒に天皇

陛下と会食をしている写真が載つ

ている。これみて考えちやつたん

だ。同じ同人仲間のこの違い。こ

のとき、エロ本のシミショウさん

の名を世間から忘れてもうには

どうすればいいかと本氣で考えた。

それは十年かかるだろうと思

い、それまで書いた本の版権を一

冊五万円ほどでゾッキ屋に叩き壳

り、奥さんに「俺十年間仕事しね

えよ。この二千五百万円で、その

間食つてけ」と手渡したら「では

十一日はどうします」と言われ

た。血管や神経のくつついた卵の

二倍くらいのドロドロしたもの

掌に載せる。目玉がギヨリとこ

ちらを見んでいる。最高の馳走な

突然ナイフで羊の目玉をくり抜い

た。爺さんは酋長らしい。羊の丸焼き

降り、夜になつていて黄色い砂漠

もわかるもので、どうやら自分の

うちへ来いと言つている。終点で

話しかけてきた。言葉というものは

真剣に聞いていると通じなくて

もわかるもので、どうやら自分の

うちへ来いと言つている。終点で

話しかけてきた。言葉というものは

真剣に聞いてると通じなくて

もわかるもので、どうやら自分の

うちへ来いと言つている。終点で

第15回

第十五回高尙祭は、十一月二日（土）、三日（日）の兩日において行われた。兩日とも珍らしく好天の学生によつて、萩尾台は最大の盛り上がりを見せた。

うということと、メインテーマを「志氣」と決定し、前回（本校創立三十周年記念）にも劣らないような、すばらしい高専祭が出来上がった。

A black and white photograph showing a group of students in a classroom or laboratory setting. They are gathered around a table, looking at a clear plastic model of a car's front end, possibly a Toyota Corolla. The students are dressed in various styles of clothing, including jackets and shirts. The background shows other students and what appears to be a doorway.

で定め、中庭には、学生が企画、製作した自動空カンつぶし機や太時計、又、機械棟周辺には、テーマ園にふさわしく、電動の自動車、トライサイクル、そして、人が乗っても浮上するホバークラフトなど、学生と教職員が一体となり、前回を上回る見事な学科展示であったといえよう。

カルガーデンなどは、化学展示の
あるべき姿を見た。
建築学科のテーマは、「つくる」
であった。テーマにふさわしく、
有名建築、古建築、住宅、構造模型
型があり、日本の代表的な住居の
変遷の過程を模型で示し、一般の
人々の関心を引いていた。高専祭
が近づくにつれて、遅くまで学校
に残って造り上げた数々の作品に
は、設計、製作等のチームワークの
見事さが感じられるばかりであっ
た。

波各部の展示、バンド演奏、吹奏樂部の演奏には、日頃の活動、講習の成果を見ることが出来た。クラス企画の催し物も、前回より参加者は少ないと内容は上回るものであった。そしてクラス企画の少しさを補うかのごとく、文化部の躍が目立つた。

秋期体育記録会

昭和60年度、秋期体育記録会は、9月20(金)に行われた。前夜は、雨に見舞わ、当日早朝もグランドコンディションが悪く、開始があやぶれたが、学生諸君の

望により、開始された。
日中は、学生諸君の願いがかなったのか、
晴に恵まれ、グランドも回復し、すばらしい記録会となつた。

種目	優勝者名	記録
女子ハンド	2 E 田淵佳苗	※29m 07cm
男子ハンド	2 A 佐野剛一郎	※43m 40cm
走高跳び	5 M 上田直紹	※ 1 m 87cm
走幅跳び	3 E 松永英郎	※ 5 m 80cm
学科対抗R	建築学科	4分21秒21
最優秀クラス	4年建築学科	108点
総合優勝学科	建築学科	375点
優勝のみしか記載できませんでしたが、 2位以下にも、大会新記録を含むすばらしい 記録があったことをお知らせします。 ※は新記録		(学生会長)

われが宿明寮の名物行事の一つである寮生漫歩が、6月15日(夕方から翌日の未明にかけ、三年ぶりに行われた。コースは船小屋→寮までの28 kmである。寮→船小屋はバスと汽車を乗り継ぎ、船小屋駅で点呼をとり、いよいよ漫歩の出発だ。中の島公園までの1.5 kmは皆余裕もあり和気あいあいの雰囲気。第二休憩所の竹飯神社までは8.5 kmと若干長いが皆元気。ここで待望の夜食。神社の境内や道路脇にすわり込んで食べたほかほかの肉めし弁当は大好評(写真上右)。神社を出てからは歩調がなぜか速まる。時速5 kmを越えるスピードで黙々と歩く。第三、第四休憩所を過ぎるころは、疲れと眠気が襲ってくる。たゞ脚だけが動き、話をする者もほとんどいない。歩け、歩け、歩けだ(写真上左)。



察行事特集
寮生漫歩 やつたぞ 全員完歩

寮長
高木浩一

わが岱明奈の名物行事の一つで、
寮生漫歩が、6月15日(日)夕方
から翌日の未明にかけ、三年ぶり
に行われた。コースは船小屋→寮
での28kmである。寮→船小屋は
スムーズに進み、船小屋までは
は早鐘踏切から走り出した者も
いる。先頭が帰寮し最後尾の者が
到着するまで約20分。その間、続
々と重い足取りで寮門を通り抜け
る。苦しかつたものの達成感のた

ご協力頂いた多くの教職員の皆様へ
ご厚く御礼申し上げます。



第23回 寮 祭 と湧く 笑いの渦

どつ ると、「岱明寮の
の親・育ての親」
て甘年お世話頂いた元寮母の
さん、近所の人達、そして沢
女子学生の姿がみられ寮祭を
華やかなものにしてくれた。
寮祭は、副寮長による開会

り愈々開幕の運びとなつて、最初の出し物の2年生劇に始り各学年の劇やコントが次々に披露され、会場はどつと湧き立つた。また、出し物の合間に腕相撲、宝くじ、物まね、歌、コーラ早飲み競争、等が続々とでてきてムードは一段と盛り上つていった。

各学年の出し物では、どれも個性のあるものばかりであつて、その中の一つの一年生Aによる寸劇「仮面ライダー」は、会場に爆笑の渦を巻き起した。また、昨年惜

- 総合優勝
- ソフトボール優勝
- 卓球優勝
- バレーボール優勝

福岡 A

・岡田の両君はV奪回に燃えて強力な助人として江田・君を加えコントに挑戦し、見事に通算三度目の優勝を果した（写真中右）。

総勢20名で戦った腕相撲は、激戦を勝ち抜いた末松（20）君、永井（16）君のラグビー部の子弟コンビの間で決戦となり末松君が優勝。物まねでは通学生の関戸（20）君が飛び入りで参加し名技を見させてくれた。

次に、恒例の美人コンテストでは本当に可愛い娘、なぜ出したかと疑う娘、様々だがとにかく身も心もそして下着までも女となつた内山（6）君が優勝した。（写真中左）宴も終りを迎える宝くじ・一等の当選発表を最後に、盛り上った祭は予定通りに終幕となつた。



写真2 吹出しチャンバー屋根製作



写真3 パッシブソーラーハウス枠組



写真4 パッシブソーラーハウス基礎型枠組立



写真5 パッシブソーラーハウスブロック積み

その効果の大きさ、現われ方及び
フィン形状等の違いが蓄熱性能に
及ぼす影響を調べる事を本研究の
目的としている。

次に環境問題に関しては、昭和
56年度より開始された「海水中微
量成分の分析」が、4年間の研究
期間を終え昨年度終了している。
本研究によりアルゴンブレーズマ分
光分析装置の使用法が確立され、
今後の試料分析が円滑に行われる
ための基礎ができた。もう一つの
テーマである「有明海沖積層の堆
積学的研究」は、57年度後期より
大牟田市沖積平野の微地形分類図、
海成・河成相の水準・垂直分布図、
土地条件図及び地史の作成を目的
として開始された。主に、研究手
段として粒度分析法が採用され、

過去3年にわたって行われてきて
おり、本年度も引き続いて、ボーリング試料の粒度分析を実施する
予定である。

自然災害問題に関しては、前述

した「一方向型吊屋根のフレーム
」の他に、「九州中部地域の建築
物震害防止」のテーマのもとに、
特定研究の一環として実験的研究
が行われている。本研究は、直下

地震に対する建物被害を防止する
ための基礎研究であり、57年度よ
り、R-C長柱のせん断破壊性状を
究明すべく実験解析が行われてい
る。さらに昨年度より、環境開発
教育研究施設の地震災害シミュレ
ーション室にある振動台を使用し
て、「木造建築物の震害防止のた
めの基礎研究」も行われ、研究目

的の達成に向って本年度も継続中
である。

最後に、工学的基础問題におい
ては、昨年度と同様に「ウリカーピ
ゼによる尿酸の分解反応」と「Pyr
-GC-MCによる高分子化合物の分
析」の2つのテーマで研究が継続
されている。前者は、57年度より
開始され、尿酸の分解反応機構の
解明を目的としている。後者は、
高分子化合物の分析法として、熱
分解レガスクロマトグラフイーによ
る分析・質量分析装置による分
析を貫して行なおうというもの
で、この方法が確立されれば、種
々の高分子材料への応用も考えら
れている。

以上、総合実習に関連する研究
テーマ並びに実習内容について述
べてきた。各々の研究とも総合実
習センター及び環境開発教育研究
施設の設備を充分に活用して研究
成果を着実に積み重ねて来ている
が、今後望まれることは、総合実
習の基本理念にもあるように、学
際的な諸問題に対応できる能力の
養成を行なえるような研究テーマ
の設定をすることである。現在、
各学科より教官、学生が参加して
いるが、各科合同の研究テーマは
なく、また各テーマ間の関連性も
それほど強くない。そこで、これ
からは、総合実習委員だけでなく、
なるべく多くの教官が集結し、デ
ィスカッションを行ない、真に学
際的と言えるようなテーマを決定
し、数名の教官が協力して、同一
テーマの研究を行えば、大きな成

実習は本年度で10年目を迎える。
この間総合実習センターのメイン
テーマであった環境風洞は無の状
態から始め、構想、設計及び製作
と一貫して学生・教官一体のもと
に作業が進められ、本年度、最後
に残った作業である吹出しチャン
バー屋根取付け（写真1）を無事
終了して、10年目の完成を見たの
である。しかし全てが順調だった
わけではなく、風洞断面内の風速
分布の乱れが強く、所期の性能が
得られない等の問題が起こったが
その都度、学生・教官を交えて、
対策が練られ、改良を施して解決
していった。今後は、本風洞を利
用して、種々の実験・解析を本格
的に行う新しい段階に入り「総合
実習は、企画・調査・設計・製作
・実験・解析・発表・応用の一貫
総合学習である。」という、本来
の basic 理念の実現に大きく近づ
いた感がある。

風洞を活用した研究・実験は、
本年度までにも幾つか行われてき
ており、「防護網の抗力係数につ
いて」、「一様空気流れの中の回
転球に働く力」、「一方向型吊屋
根のフレーム（その3）—吊屋根
の一自由度フレームについて（ケ
ースV）」等があり、第3番目の
研究については現在、実験中であ
り、風洞の性能が確立されたこと
にともない、その成果が期待され
ている。また、風洞の気流特性等

を調べる際に必要な「センサ一移
動装置」に関する研究も現在進行
中であり、大部分の形が出来上つ
てある。今後は、誤差の修正及び
付帯装置の設計・製作を行ってい

また、総合実習の3本柱の一つ
であるエネルギー問題に関しては、
現在、2つの研究が昭和57年に
竣工した「環境開発教育研究施設」
を利用して進行中である。本問題
に当つては当初より一貫して太陽
エネルギー変換は行わない。本ソーラ
ーハウスにおいては、南壁にプロ
ック吸収壁を設け、昼間に、太陽
熱を吸収しておき、夜間、室内に
放熱して、冬期の室内暖房に利用
するというものである。壁面と室
内气温を各点で測定し、暖房効果
を計測・解析する予定である。後

者の研究は、昭和57年度より開始
されたもので、太陽熱エネルギー
直接利用するもので、機械的な工
ネルギー変換は行わない。本ソーラ
ーハウスに関する基礎研究、「太陽
熱エネルギーに関する研究」及び
「ヒートパイプの性能に関する
実験」がある。現在は、「ソーラ
ーハウスに関する研究」と「フィ
ン管を用いた潜熱蓄熱装置に
する研究」が継続中である。前者
は、過去数年来のソーラーハウス
に関する調査研究の後、本年度よ
り実験段階に移行するため、同施
設2階のエネルギー観測エリアに、
面積4m²のパッシブ型ソーラーハ
ウスを建設中である。パッシブ型
とは、太陽光の持つエネルギーを
直接利用するもので、機械的な工
ネルギー変換は行わない。本ソーラ
ーハウスにおいては、南壁にプロ
ック吸収壁を設け、昼間に、太陽
熱を吸収しておき、夜間、室内に
放熱して、冬期の室内暖房に利用
するというものである。壁面と室
内气温を各点で測定し、暖房効果
を計測・解析する予定である。後

者的研究は、昭和57年度より開始
されたもので、太陽熱エネルギー
直接利用するもので、機械的な工
ネルギー変換は行かない。本ソーラ
ーハウスに関する基礎研究、「太陽
熱エネルギーに関する研究」及び
「ヒートパイプの性能に関する
実験」がある。現在は、「ソーラ
ーハウスに関する研究」と「フィ
ン管を用いた潜熱蓄熱装置に
する研究」が継続中である。前者
は、過去数年来のソーラーハウス
に関する調査研究の後、本年度よ
り実験段階に移行するため、同施
設2階のエネルギー観測エリアに、
面積4m²のパッシブ型ソーラーハ
ウスを建設中である。パッシブ型
とは、太陽光の持つエネルギーを
直接利用するもので、機械的な工
ネルギー変換は行かない。本ソーラ
ーハウスにおいては、南壁にプロ
ック吸収壁を設け、昼間に、太陽
熱を吸収しておき、夜間、室内に
放熱して、冬期の室内暖房に利用
するというものである。壁面と室
内气温を各点で測定し、暖房効果
を計測・解析する予定である。後

総合実習リポート(23)



写真1 吹出しチャンバー屋根取付

昭和60年度 前期 総合実習経過表

実習項目	実習経過 (月) (日)	4			5			6			7			8			9			実習者数×時間(人時)					
		10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	M	E	C	A	小計	
シーケンス実験	モーターのじか入れ始動シーケンス				■	■		■	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	28.5	39			67.5	
	モーターの正逆転シーケンス				■	■		■	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	42	29.5			71.5	
	自動ドア開閉シーケンス	■	■	■	■	■	■	■	■	■										81				81	
環境風洞	吹出しチャンバー屋根製作	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	111				111	
	風洞塗装作業																			■	■	■	■	36	
	風洞内風速測定																			■	■	■	■	45	
	構造物の風による振動実験	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	186	
	パッシブソーラーハウス設計製作	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	281	
	アンケート調査																			■	■	■	■	21	
	Pyr-GC-MSによるポリウレタンの熱分解機構の検討	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	343	
																				通算累計	343.5	68.5	343	488	1,243

(吉田)

第18回 四高専吹奏楽合同演奏会

昭和60年度 下宿主との懇談会

第六次「工作機械技術振興賞」
奨励賞 受賞

「ツイストドリルによる深穴加工の研究」

機械工学科田口紘一先生・機械

工学科学生蘭田隆繼・宮本孝司

年3月卒業両君の卒業研究に對し

て・6月20日財團法人「工作機械

技術振興財團より「工作機械技術

振興賞」奨励賞が贈られました。

受賞おめでとう御座ります。なお、

田口先生の受賞は2回目です。

去る八月十一日(日)、小倉市民会館にて、有明・久留米・大分・北九州の四高専が集り演奏会が開かれました。

毎年開かれる、四高専合同演奏会も、今年十八回を迎えることができました。

我々は、この演奏会の為に十日間の合宿を行い、四高専の和を広げ、演奏会を作り上げてきました。

演奏会は、一部オリジナル、二部ボビュラー、三部クラシックで構成されました。

来年は、大分で開かれますが、これからも、もっと回を重ね、発

展していく

でしょう。

最後にな

りましたが、

多くの関係

者の方々に

厚く御礼申

し上げます。



第1回 体育系クラブリーダー研修会を終えて

修己館セミナー室で開催

達の真剣な討論が会を盛り立て終らせた。

これらの効果について即座に聞ることはできない。しかし、比處代わるものとして各体育クラブの部長を集め、リーダーとしてのありべき姿について討論し、研修を

修会を開いてきた。今年はそれに代わるものとして各体育クラブの部長を集め、リーダーとしてのありべき姿について討論し、研修を

本校では年に一回、体育系クラブ員のために急救講習会等の研修会を開いてきた。今年はそれに代わるものとして各体育クラブの部長を集め、リーダーとしてのありべき姿について討論し、研修を

有明高専だより

第59号

昭和60年12月16日

会館にて、有明・久留米・大分・北九州の四高専が集り演奏会が開かれました。

毎年開かれる、四高専合同演奏会も、今年十八回を迎えることができました。

我々は、この演奏会の為に十日間の合宿を行い、四高専の和を広げ、演奏会を作り上げてきました。

演奏会は、一部オリジナル、二部ボビュラー、三部クラシックで構成されました。

来年は、大分で開かれますが、これからも、もっと回を重ね、発

してきます。

最後にな

りましたが、

多くの関係

者の方々に

厚く御礼申

し上げます。

下宿主のご出席八名、学校から

は校長・三主事・主事補・学年主

ミナー室において行われた。

二時間にわたり懇談した。

校長から挨拶があり、学生の挨

拶とマナー・環境美化・事故防止

に関する話題など、校長から、学

生がたいへん可愛がってもらつて

いることが感じられ、特に食べも

のにつけて、おふくろの味といつ

たことが話題になつた。

学校としては下宿がタバコや麻

雀のたまりにならないようにお願

いし、学校食堂で会食をしていた

だいでお別れした。

喜ばしい事であると思つていい。

学校見学会には多くの中学生諸君

が参集し、特別講演には著名な作

家に来校賜り、高専祭も好評裡に

終了した。また、7月25日および

9月11日より開講された夫々の公

記憶に留め、部長を中心とした健

深めようとの企画が持ち上がつた。

この種のものについては、今迄も

試みられてきたのだが、今回は特

に全面的に各クラブ顧問の先生方

の協力を仰ぐことができ、夏休み

スピーチに一人が登場しました。

スピーチに一人が登場しました。

「参加することに意義がある」と

叫んでおった二人ですが、その結

果は、もののみごとに悲惨なるも

のでした。しかし、他の高専との

交流ができるとても良かつたと思

います。次回は、「賞をもらうこ

とに意義がある」という気持でや

つていうこうと思います。

(日程・内容)

昭和60年9月7日(土)13時30分より

参加者 学生18名 教職員28名

(I)全体会 13:30 ~ 14:20 (講話)

(II)分科会 14:20 ~ 15:25 5 クラ

ブズつ 3 分科にて討論 (III)全体会

15:40 ~ 17:00 分科会報告 (主事室)

本号は記事満載となり、前号より始めた読み易さのための企画に逆向する箇所もあると思われるが、御寛容願いたい。編集者としては喜ばしい事であると思つていい。

学校見学会には多くの中学生諸君が参集し、特別講演には著名な作家に来校賜り、高専祭も好評裡に終了した。また、7月25日および9月11日より開講された夫々の公記憶に留め、部長を中心とした健深めようとの企画が持ち上がつた。

この種のものについては、今迄も試みられてきたのだが、今回は特に全面的に各クラブ顧問の先生方の協力を仰ぐことができ、夏休みスピーチに一人が登場しました。

スピーチに一人が登場しました。

「参加することに意義がある」と叫んでおった二人ですが、その結果は、もののみごとに悲惨なるものでした。しかし、他の高専との交流ができるとても良かつたと思います。次回は、「賞をもらうことに意義がある」という気持でやつていうこうと思います。

この英語弁論大会は、レシテーションとスピーチの2部門に分かれおり、レシテーションとはあらかじめ原文がありそれを、暗記し発表するものです。この時ただ発表するのではなく、表情などの

夫々の行事について、更に詳細に御報告すべき事項が多くみられる。特に公開講座については、スケジュールの足らざる事を痛感した。穴山先生による「櫻のうた人歌謡言道」中の大隈言道の一首「咲く花を尋ねて行けばいつよりか去年來し道にみちはなりきぬ」今年も残るところ僅かである。来る年を迎え皆さんの多幸を祈る。教務主任